

(資料2)

お詫びと訂正

平成19年10月22日付け記者発表『国道468号首都圏中央連絡自動車道(圏央道)八王子JCT～あきる野IC 6月の開通から4ヵ月、中央道接続による効果をお知らせします。圏央道の開通効果が着実に現れてきました。』(以下、「10月22日記者発表」という。)ならびに、平成19年11月9日付け記者発表『東京湾周辺地域及び圏央道料金社会実験について(実験結果の速報)』(以下、「11月9日記者発表」という。)の本文中、添付資料中に使用している一般道の一部データに見直しを要する部分がありました。お詫びし、訂正いたします。訂正の内容は、以下の通りです。

これらは、集計に用いる車両感知器の選定に適切でないものがあつたために生じたものです。

今後は、データのチェックを確実に行之、適切な情報提供に努めてまいります。

表 10月22日記者発表の記載内容

訂正前	国道16号では約7,000台/日の交通量が減少しています。
訂正後	国道16号では約3,800台/日の交通量が減少しています。

表 11月9日記者発表の記載内容

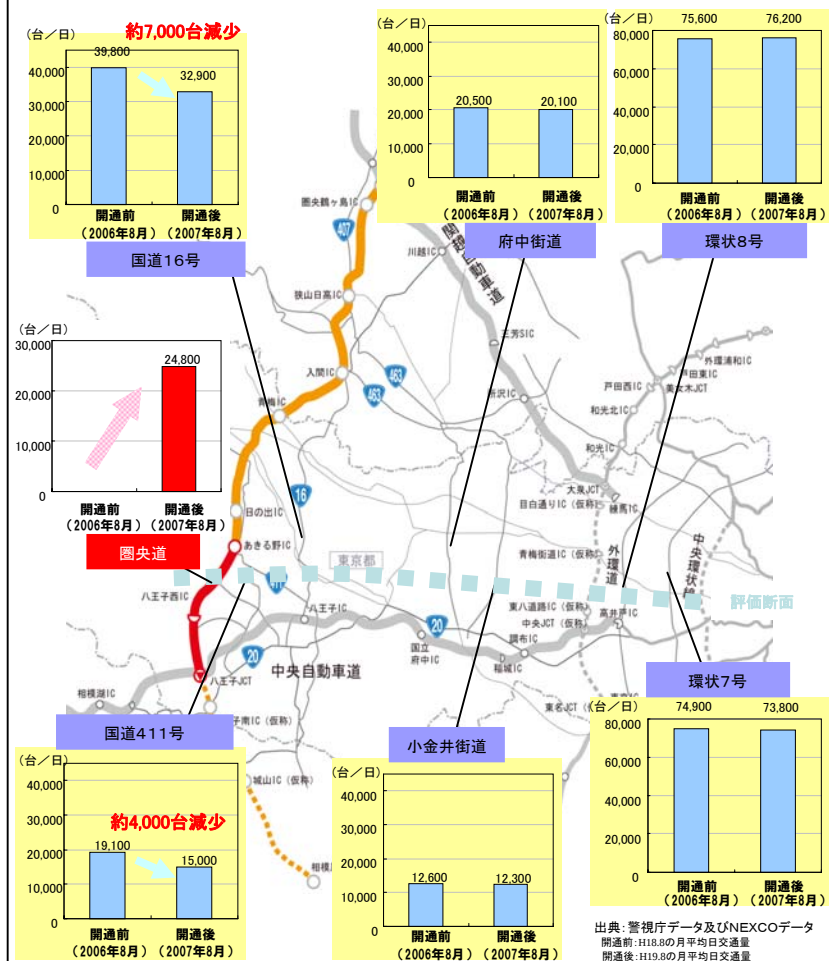
訂正前		一般国道16号の交通量は、約18%減少しています。
訂正後	データ期間を訂正前と同日で整理(※1)	一般国道16号の交通量は、約1%増加しています。
	データ期間を10月に更新し整理(※2)	一般国道16号の交通量は、約2%減少しています。

※1 社会実験前：H19.7.23～24 社会実験中：H19.8.27～28 と同日で整理

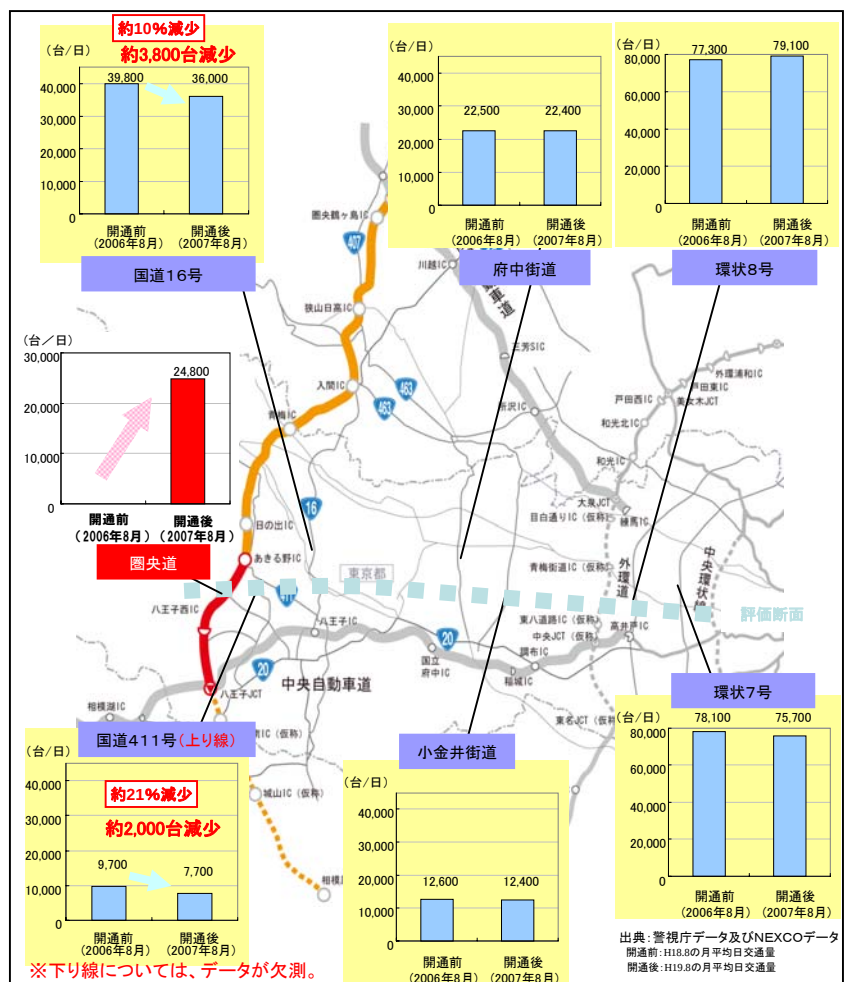
※2 社会実験前：H19.7 社会実験中：H19.10 月平日平均日交通量で整理

10月22日記者発表

資料4 並行する南北方向の交通を担う一般道で交通量が減少

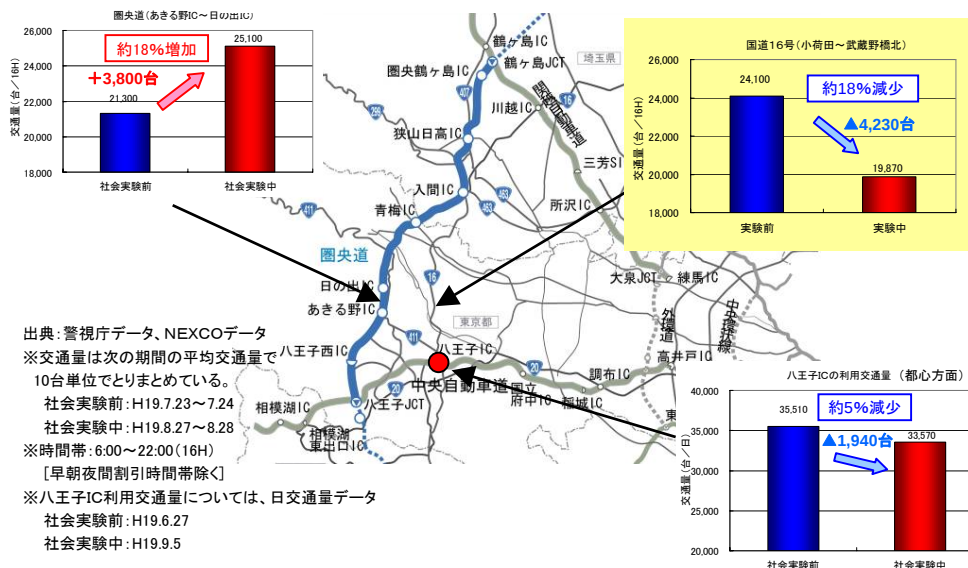


※集計に用いる車両感知器を適切に選定しました。

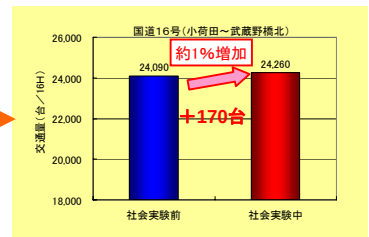


11月9日記者発表

資料10 交通の変化『圏央道』～圏央道に並行する国道16号等の渋滞緩和の例～



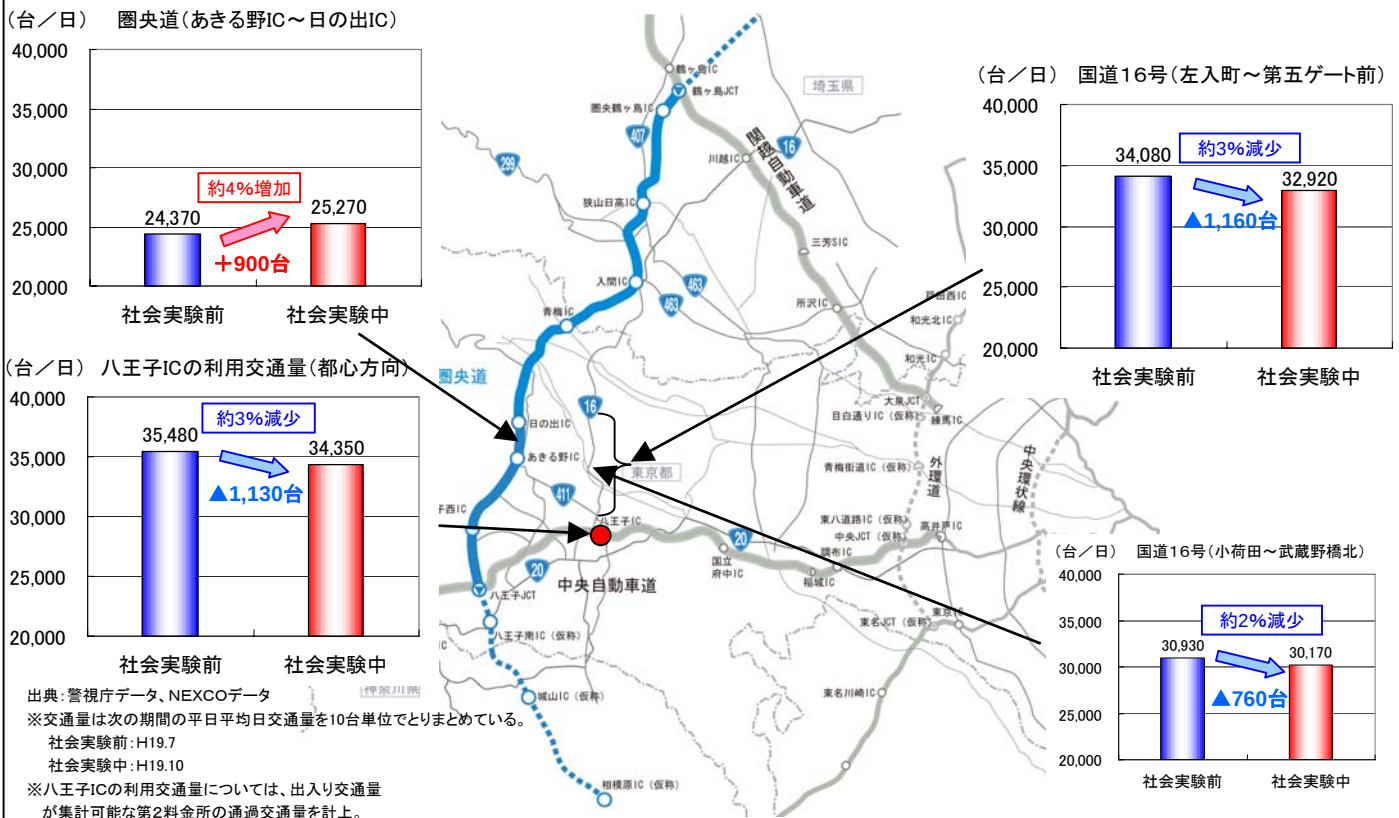
データ期間を
訂正前と同日で整理



※集計に用いる車両感知器を適切に選定し直しました。

データ期間を10月に更新し整理

※集計に用いる車両感知器を適切に選定し、データの期間についても平日の2日平均16h交通量から月平日平均日交通量とし、10月のデータに更新しました。





国道468号 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）八王子JCT～あきる野IC
6月の開通から4ヶ月、中央道接続による効果をお知らせします。
圏央道の開通効果が着実に現れてきました。

記者発表資料

平成19年6月23日に、圏央道の八王子ジャンクションからあきる野インターチェンジまでの延長9.6kmが開通し、東京西側で初めて放射の高速道路間（中央道～関越道）が接続しました。この度、圏央道開通の効果をとりまとめたので、お知らせします。

《交通の変化・渋滞緩和》

○圏央道利用交通の増加 《資料1》

- ・圏央道の交通量は、中央道と関越道が接続されたことにより、過去の圏央道延伸による利用交通の伸びと比べ、大きく（年約7%平均→約60%）増加しています。

○圏央道を利用する交通の約5割が中央道～関越道を連続利用しています 《資料2》

- ・圏央道（八王子JCT～八王子西IC間）の利用交通（26,400台/日）の約5割が中央道～関越道間を連続利用しています。

○放射道路をつなぐ環状道路機能が約5倍 《資料3》

- ・中央道と関越道を乗り継ぐ交通は圏央道により連続利用が可能となり、3,300台/日から15,300台/日へと約5倍に増加しました。

○圏央道に並行する一般道の交通量が減少

- ・中央道～関越道間の国道16号では約3,800台/日（約10%）、国道411号（上り線）では約2,000台/日（約21%）の交通量が減少しています。 **《資料4》**

- ・国道16号の小荷田交差点と国道411号の丹木町三丁目交差点では大型車の交通量が約1,100台/日減少し、渋滞が緩和されました。 **《資料5》**

《地域や産業の活性化》

○インターチェンジ周辺では企業進出により地域や産業が活性化 《資料6》

- ・日の出町には企業進出により約2,000人の雇用が増加。
- ・そのほかのインターチェンジ周辺においても、企業進出などが進行中。

引き続き、圏央道及び周辺道路の交通状況を観測し、開通後の効果などについて把握してまいります。

<参 考>

- ・圏央道開通後に高速道路沿線の各種企業等へのヒアリング調査や利用者アンケートを実施しました。各方面から多くの意見が寄せられています。

平成19年10月22日

国土交通省 相武国道事務所、NEXCO中日本横浜支社、NEXCO東日本関東支社

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、横浜海事記者クラブ、神奈川建設記者会、都庁記者クラブ
八王子記者クラブ、立川市政記者クラブ、青梅・西多摩記者クラブ

問い合わせ先

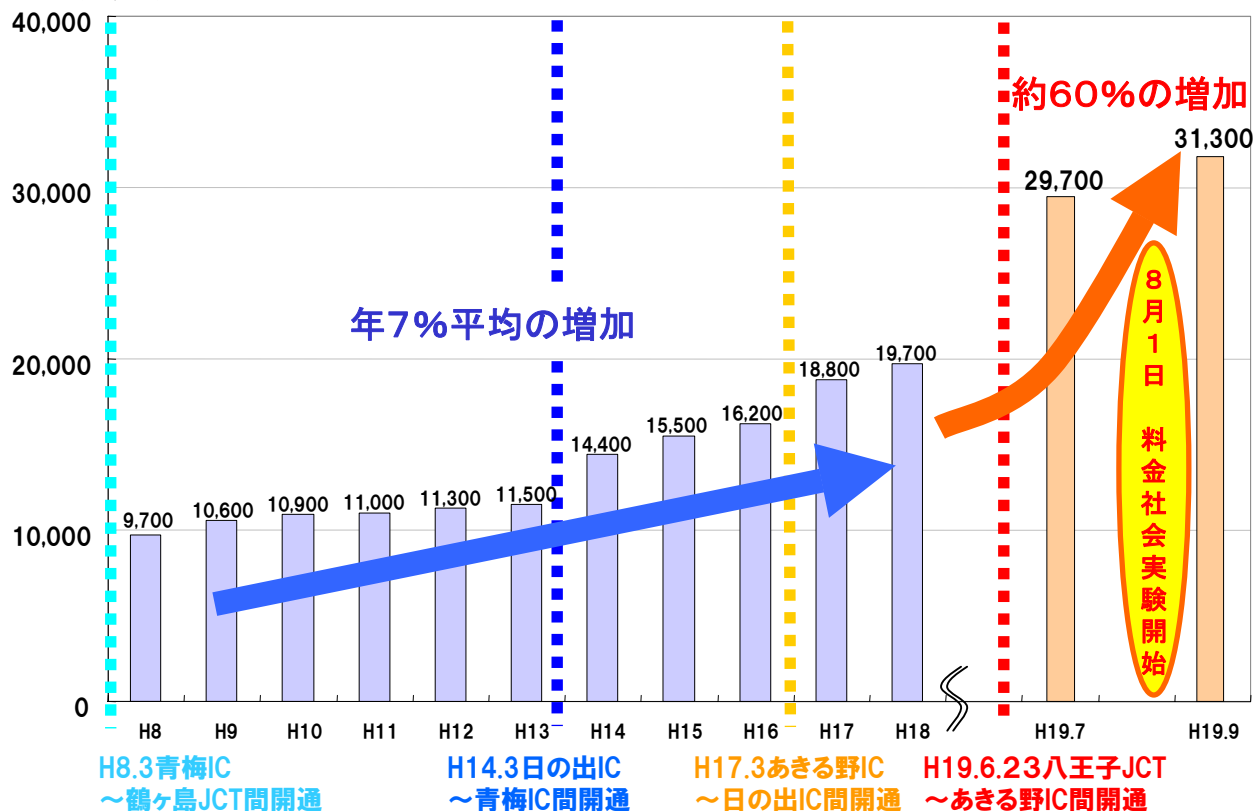
国土交通省関東地方整備局	相武国道事務所	計画課長 古川	tel:042-643-2010
NEXCO 中日本横浜支社	広報・CS チーム		tel:045-475-9207
NEXCO 東日本関東支社	広報課		tel:03-5828-8347

○圏央道利用交通の増加

- ・圏央道の交通量は、中央道と関越道が接続されたことにより、過去の圏央道延伸による利用交通の伸びと比べ、大きく（年約7%平均→約60%）増加しています。

■青梅IC～入間ICの断面交通量

交通量(台/日)



開通区間が延伸されることで、
圏央道の交通量は順調に増加

中央道と関越道が接続され、
交通量の伸びが増加

出典: NEXCOデータ

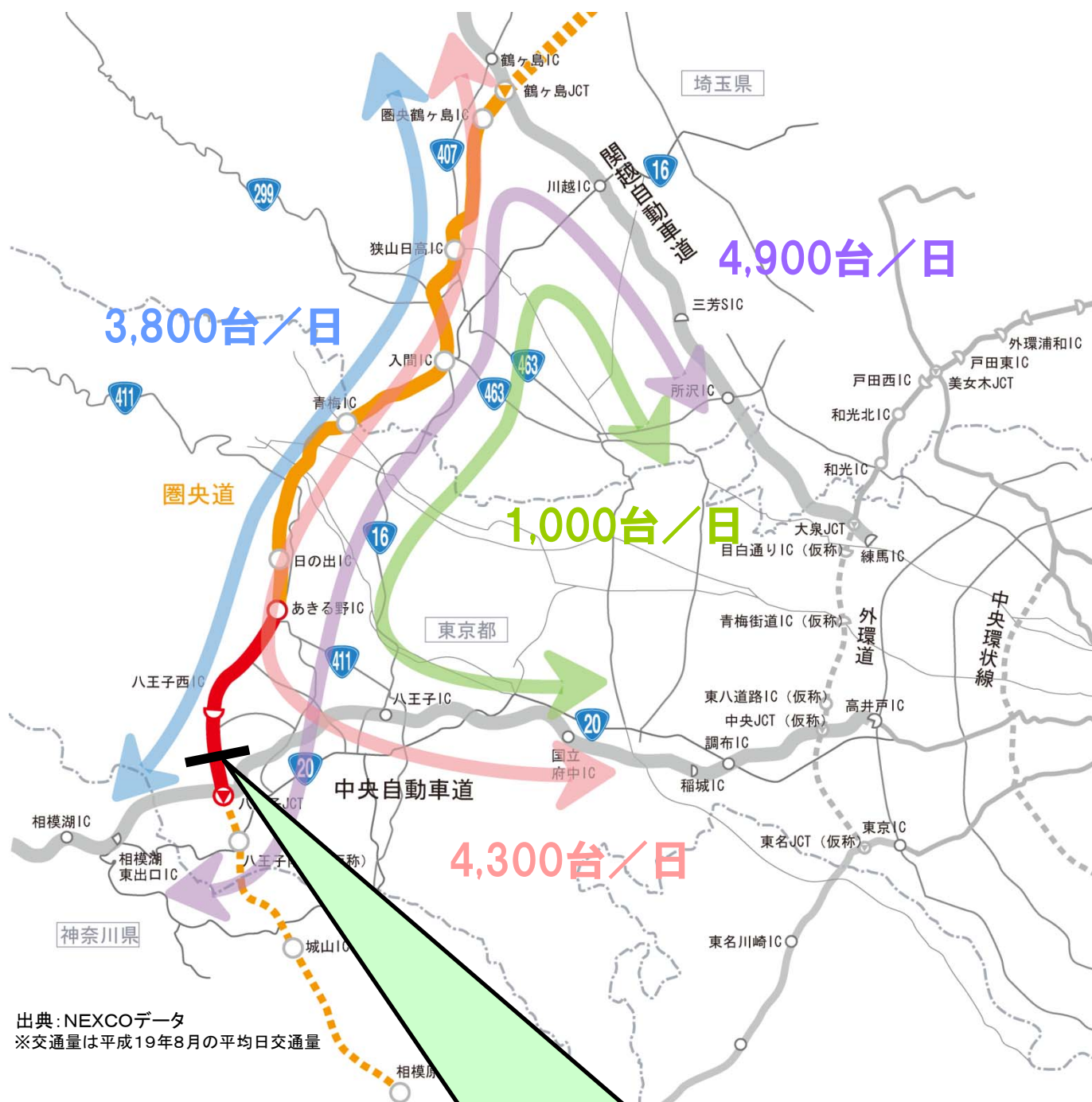
※H8～H18の交通量は、各年度平均日交通量
H19.7の交通量は、月平均日交通量
H19.9の交通量は、月平均日交通量



○圏央道を利用する交通の約5割が中央道～関越道を連続利用しています。

- ・圏央道（八王子JCT～八王子西IC間）の利用交通（26,400台／日）の約5割（14,000台／日）が中央道～関越道間を連続利用しています。

■中央道～関越道間の交通流動

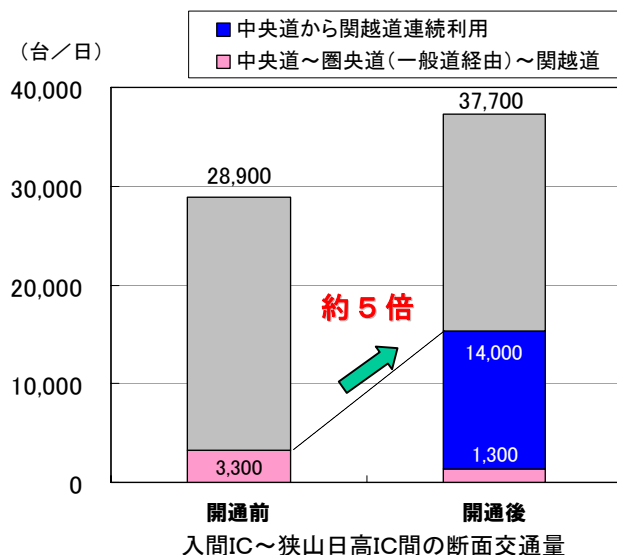


八王子JCT～八王子西IC間の断面交通量 26,400台／日
（うち中央道～関越道間の連続利用台数は 14,000台／日（約5割））

○放射道路をつなぐ環状道路機能が約5倍

- ・中央道と関越道が結ばれたことにより、中央道の各ICから一般道経由で圏央道に乗り継ぎ、関越道まで連続利用していた交通が、3,300台/日から1,300台/日へと約6割が減少しました。
- ・中央道と関越道を通り継ぐ交通は圏央道により連続利用が可能となり、3,300台/日から15,300台/日(14,000+1,300)へと約5倍に増加しました。

■連続利用交通の変化



出典: NEXCOデータ

○断面交通量

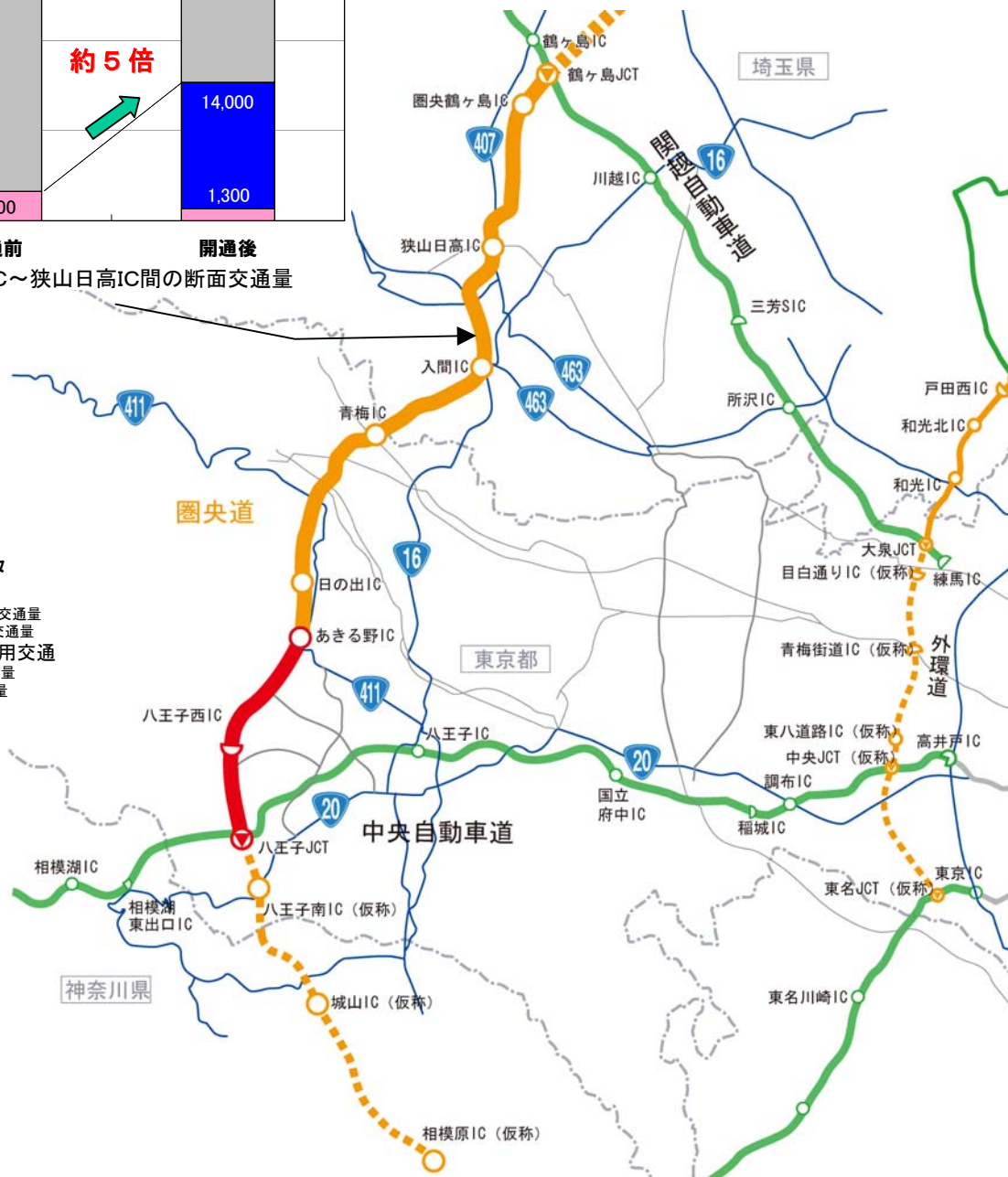
開通前: H18.11の月平均日交通量
開通後: H19.9の月平均日交通量

○一般道経由の連続利用交通

開通前: H18.11.27の日交通量
開通後: H19.9.27の日交通量

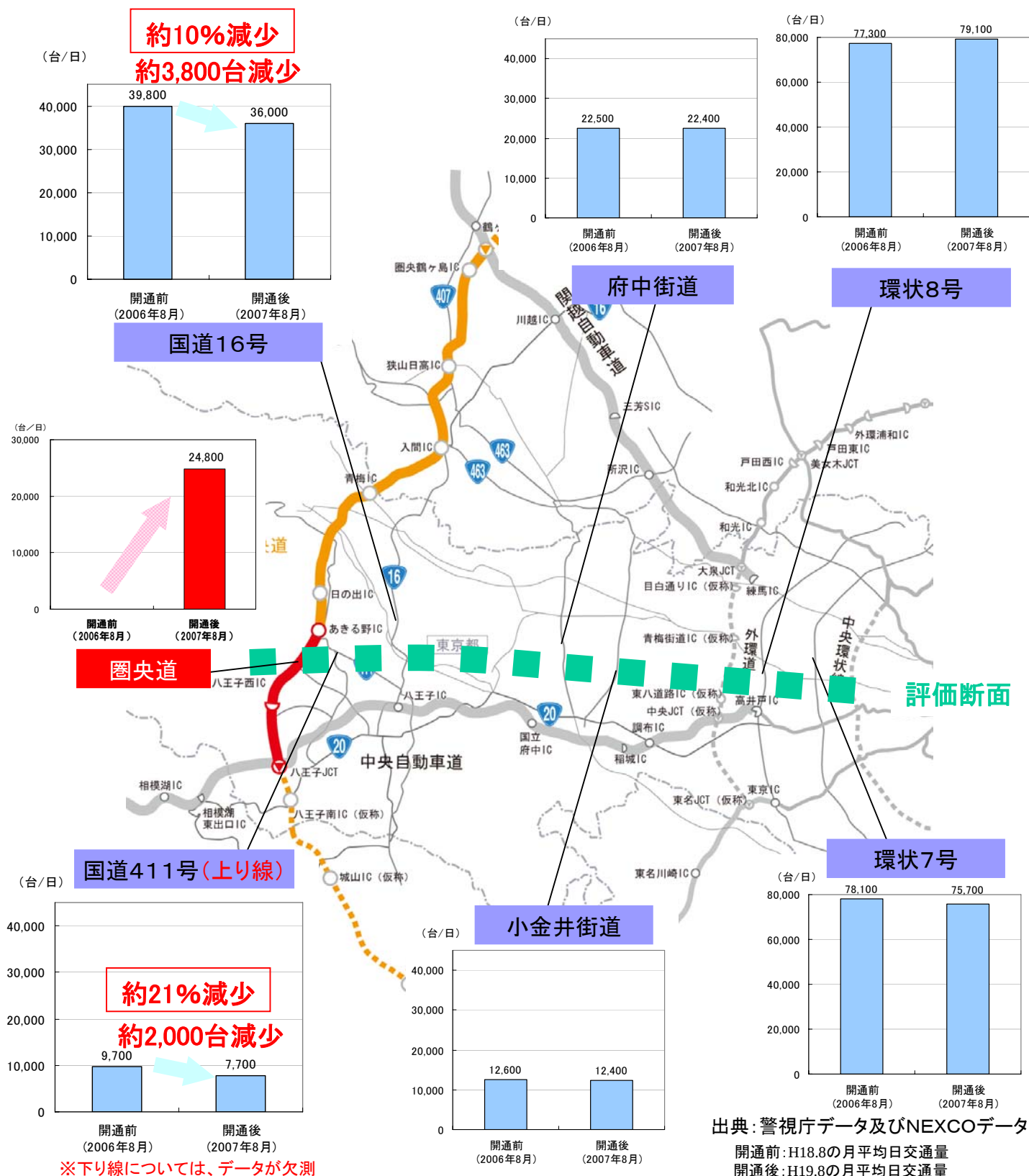
○圏央道全線利用交通

H19.8の月平均日交通量



○並行する南北方向の交通を担う一般道で交通量が減少

- ・中央道～関越道間の国道16号では約3,800台/日（約10%）、国道411号（上り線）では約2,000台/日（約21%）の交通量が減少しています。



○圏央道に並行する一般道の渋滞緩和

- ・大型車の交通量が国道16号の小荷田と国道411号の丹木町三丁目の交差点でそれぞれ約1,100台/日減少しました。
- ・また、各交差点の渋滞長は、小荷田交差点（国道16号）で1,430mから430mへと概ね1/3まで短縮し、丹木町三丁目交差点（国道411号）で190mから概ね解消されました。

■昭島市小荷田交差点の状況

圏央道開通前



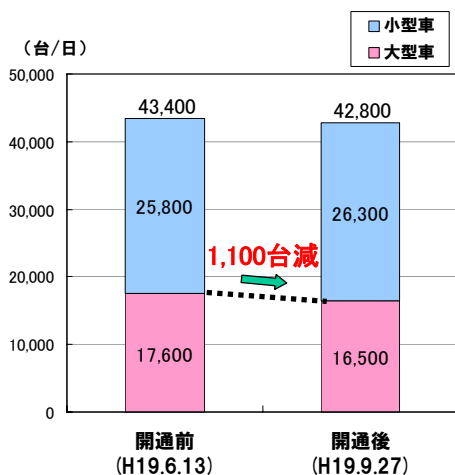
開通前(H19.6.13 8時頃撮影)

圏央道開通後



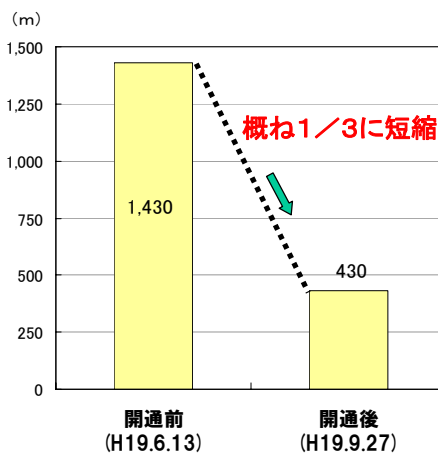
開通後(H19.9.27 8時頃撮影)

■小荷田交差点の交通量

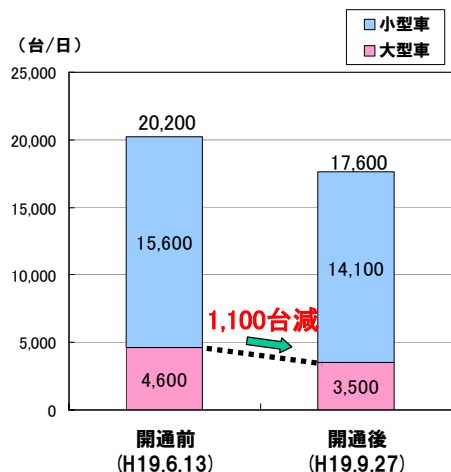


■渋滞長

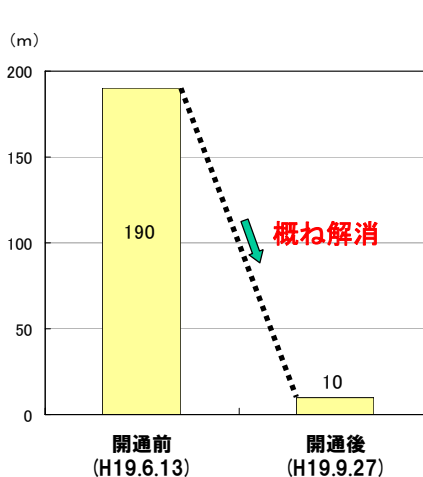
※渋滞長：右折レーン（本線・外回り）



■丹木町三丁目交差点の交通量



■渋滞長



○インターチェンジ周辺では企業進出による地域や産業が活性化

- ・平成14年に圏央道が開通した日の出町では、企業進出などにより約2,000人の雇用が増加。このうち約1,800人は日の出町以外に在住しており、周辺市町村にも効果が波及しています。
- ・さらに、大型ショッピングセンターの建設が進んでおり、今後も約2,500人の雇用が創出される見込みです。
- ・日の出町では固定資産税収が5億円から10億円に倍増しています。

開通前:昭和54年



開通後:平成17年

